卷頭言

日本LCA学会の研究会活動

Activities of the Workshops in the Institute of Life Cycle Assessment, Japan

特集幹事 柴原 尚希¹Deputy Editor-in-Chief, Journal of Life Cycle Assessment, Japan Naoki SHIBAHARA¹

従来、各巻1号の特集は「研究発表会からの投稿」でしたが、近年は投稿数が伸び悩んでいました。昨年は採択に至った原稿が1報もなく、ついに特集が成立しなかったことに加え、第15回研究発表会の対面開催がそもそも中止になりましたので、今回は募集そのものを行っていません。代わりに、各研究会に寄稿を依頼するという苦渋の判断を下しました。研究会活動を総括する特集は9巻3号（2013年7月号）以来組まれていませんので、7年半ぶりに整理しておこうという意図もあります。前回の特集号の巻頭言で原田幸明会長（当時）は、「これから、多くの研究会が生まれ、さらに枝を分かち、そこがまたネットワークのハブになって、あらたな土壌にまた別の研究会の根を下ろす。そのような積極的な展開」を期待されておりました。学会誌の会務報告や総会資料をもとに、研究会の開催状況を整理してみると、すでに活動を終了した研究会を含め、14研究会の活動実績があります（表1）。前回の特集時点と比べて倍増していますから、原田氏の期待に込められていると言えるでしょうか。

今回の特集では、運営規程に基づく2019年度活動報告書の提出があった4つの研究会（環境教育研究会、ニューツーリズム研究会、環境負荷削減貢献量評価手法研究会、資源強度評価手法研究会）および将来技術環境影響評価手法研究会から、諸報または解説を寄稿いただきました。各研究会の主査を中心に、研究会の概要、目的、活動内容、今後の抱負、活動から得られた成果や関連研究などが述べられております。研究会活動に興味を持たれた方は、著者あるいは事務局にご連絡いただければと思います。

特集にあたり各原稿を取りまとめていると、研究会内だけでなく、研究会間の情報交換も重要ではないかと感じました。例えば、SDGsを学ぶ上では観光が重要なトピックだとされていますので、環境教育研究会とニュートゥリズム研究会が連携してエコツアーを企画すると有意義かもしれません。また、削減貢献量の算定には将来シナリオの設定がカギになりますから、環境負荷削減貢献量評価手法研究会と将来技術環境影響評価手法研究会が方法論を共有してもよいのではないかと思います。図らずも、資源強度評価手法研究会が問題提起しているように、環境問題の解決策を考えるにあたっては、背後で誘発されるパラドックス問題を気に掛けておくことが重要です。本特集号をきっかけに、研究会活動が個別の専門の深化だけにとどまらず、互いを高め合う関係へと発展することになれば幸いです。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での研究会開催が難しい状況が続いています。東日本大震災が発生した2011年も同様に、研究会の開催数は少なくなりました。しかし、翌年以降は徐々に開催回数も回復し、次々と新しい研究会が誕生していったことが表1から読み取れます。コロナ禍を乗り越えることも、新たな学問領域の醸成へとつながるでしょうか。もし、次の研究会活動の特集が今回と同じ7年半後に組まれるとしたら、2028年7月号ということになりますので、パリ協定やSDGsの目標年次がもう目前です。その頃がどのような世の中になっていたとしても、研究会活動はもとより、日本LCA学会が引き続き学術的・社会的使命を果たしていることを期待してやみません。

表1
日本LCA学会の
研究会開催年表

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
食品研究会	①～⑥	⑦～⑰	⑱～㉓	㉔～㉖	㉗～㉙	㉚～㉜	㉝										
			食品研究会 Part2 → 農業・食品研究会					①～⑤	⑥～⑩	⑪～⑭	⑮	⑯～⑰	⑱～⑲	㉑			
		環境教育研究会			①～④	⑤～⑦	⑧	⑨	⑩～⑬	⑭～⑱	⑲～㉒	㉓～㉔	㉕～㉖	㉗～㉙	㉚		
		ニューツーリズム研究会			①～③	④～⑦	⑧～⑩	⑪～⑮	⑯～⑱	⑲～㉑	㉒	㉓	㉔		㉕～㉖	㉗	
	一次産業における生産段階のLCA研究会					①～②	③	④	⑤	⑥	⑦						
						環境情報研究会		①～③	④～⑤		⑥～⑦	⑧～⑨	⑩	⑪	⑫		
						インパクト評価研究会		①～④	⑤～⑧	⑨～⑪	⑫						
				サプライチェーンリスクマネジメント研究会					①～②	③～④	⑤	⑥					
						環境負荷削減貢献量評価手法研究会			①～⑨	⑩～⑫	⑬	⑭	⑮～⑰	⑱～㉒	㉓～㉔	㉕	
									Circular Economy研究会		①～②	シンポジウム					
									パリ協定後の産業研究会		①～③	④	⑤				
											地域産業共生研究会			①～②			
											将来技術環境影響評価手法研究会			①			
※丸囲み数字は、研究会の開催回数											資源強度評価手法研究会				①		

1 中部大学／〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

1 Chubu University / 1200 Matsumoto-cho, Kasugai, Aichi 487-8501

*連絡先 (Corresponding author), shibahara@isc.chubu.ac.jp